

オデンシア体験記

大学院商学研究科経営学専攻2年

佐藤 藍里

プログラム 令和5年度（第11回）日本大学商学部交換留学

留学先 オデンシア・ビジネススクール（フランス）

期間 2023年8月から2023年12月まで



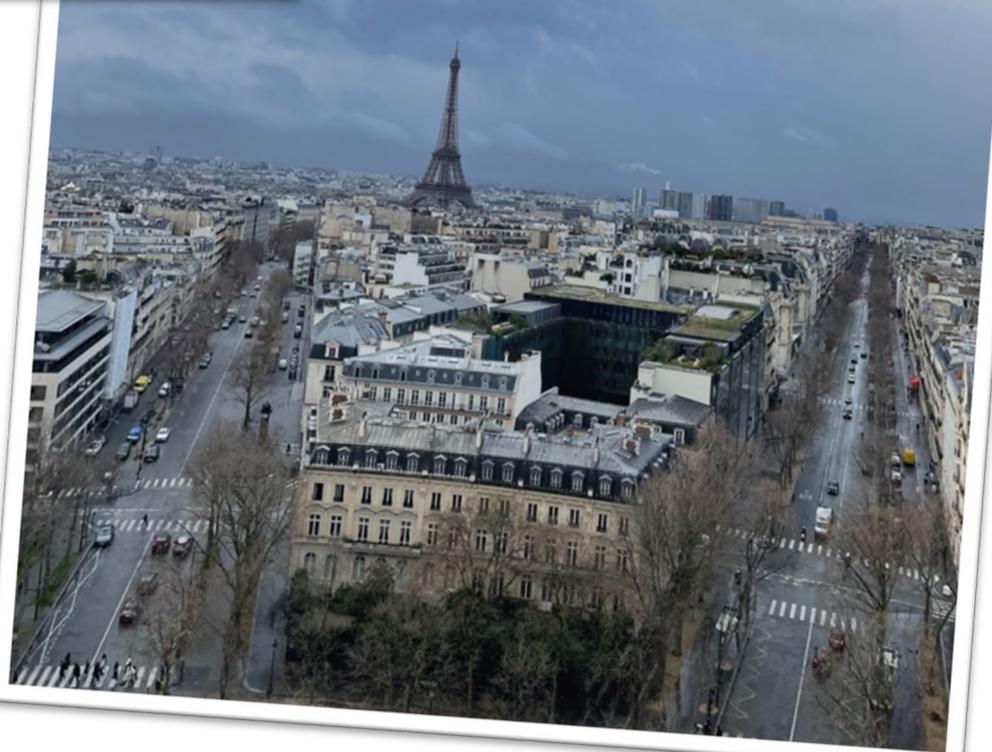
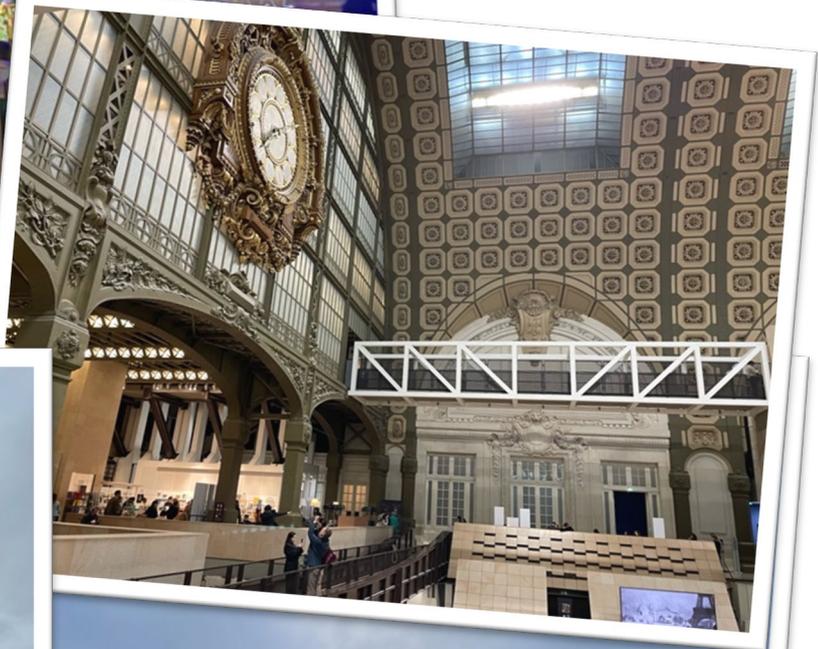
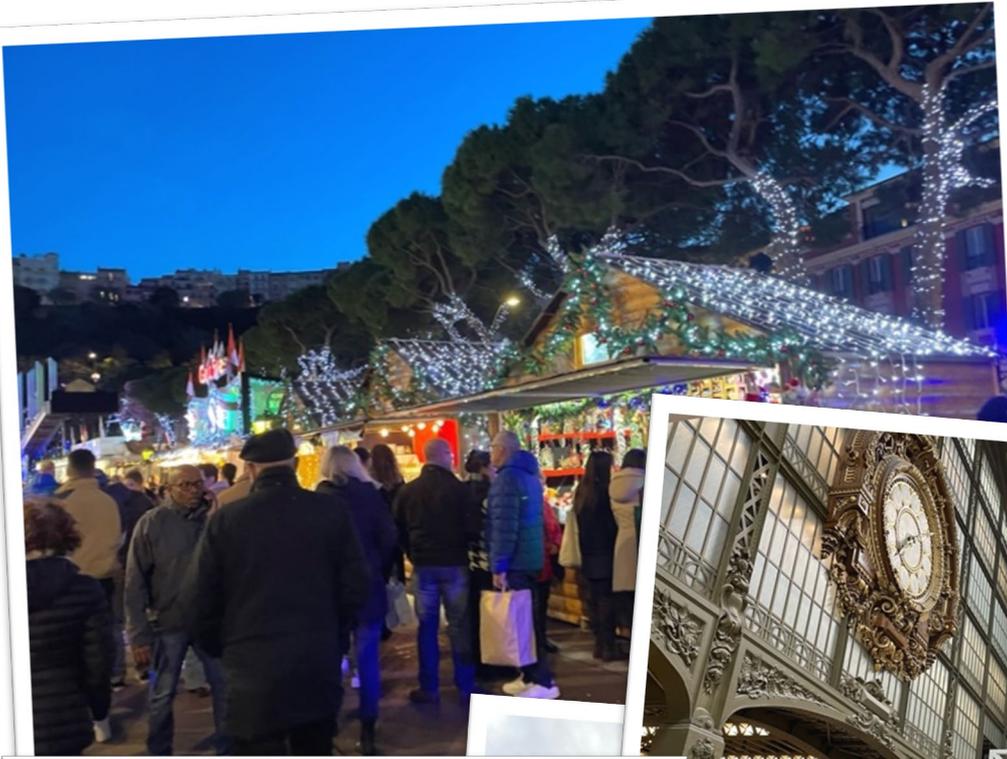
今回、フランスのナントにあるオデンシアビジネススクールで8月の終わりから12月の終わりまで、約4カ月留学していました。そもそも留学を目指した背景として、学部時代のゼミナールで、中国、台湾、韓国からの留学生と共に研究を行っており、その際に海外で勉強する大変さや楽しさを聞き、そして、彼らがゼミナール活動を通じて日々成長をしている姿を目の当たりにしたのがきっかけです。また、フランスという地を選んだ理由として、現在の研究テーマである海洋プラスチック問題と企業経営というものが関係しており、ヨーロッパではプラスチック問題解決への先進的な取り組みが多く確認されているため、この問題に対する具体的な取り組みを現地での生活を通じて理解をしたいと感じたためです。

オデンシアでは環境問題や人権意識、労働環境などから見たヨーロッパのビジネスの特徴や、留学生を対象としたフランス語の授業、プロジェクトマネジメントの手法、シミュレーションで企業を運営してその企業の株価が自身の成績になる授業など、通常の日本の大学院での授業とは異なる科目を選択し、勉強していました。



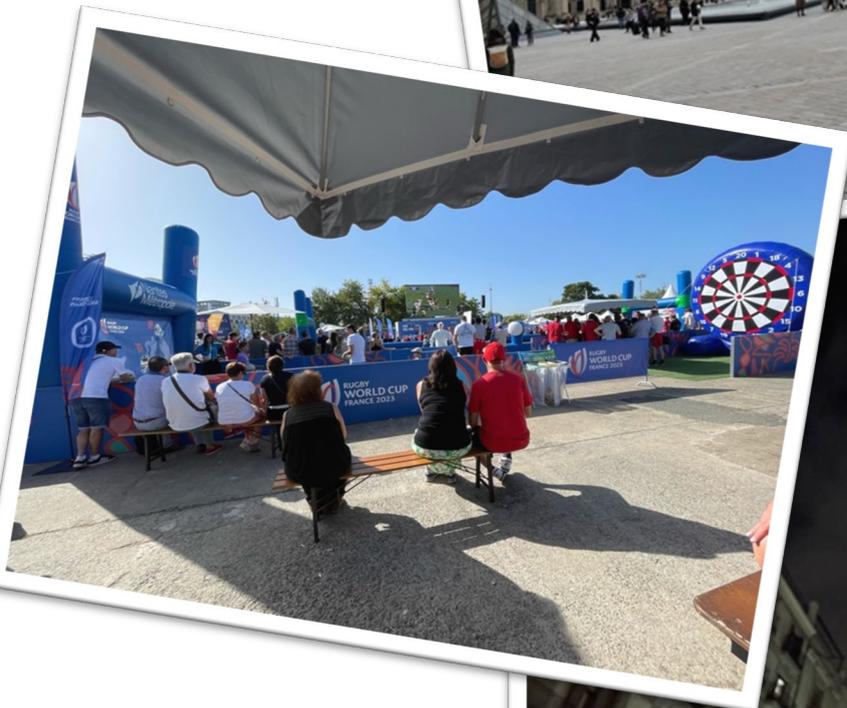
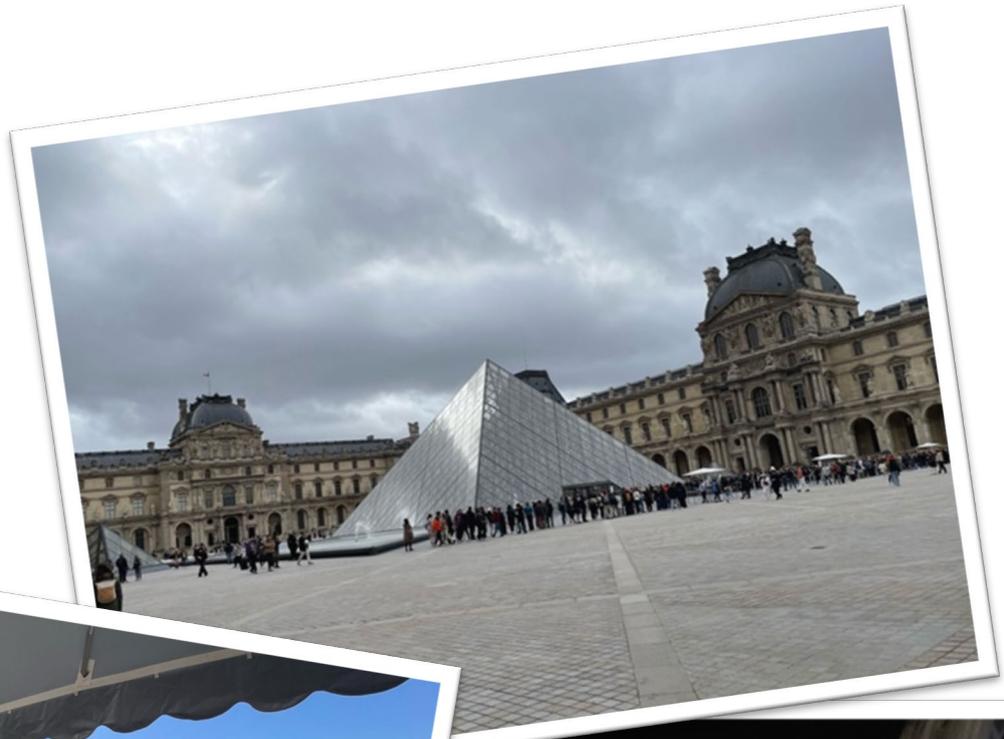
勉強で印象に残っていることとして、オデンシアの課題は全てがグループワークだった点です。すべての授業でレポートやプレゼンが課されるのですが、あらかじめ4～5人のグループが設定されており、その中で協力して課題に取り組む様式でした。グループの中には熱意をもって課題に取り組む生徒がいたり、ずっと俯いて何も話さない生徒もいたりサッカーの話ばかりする生徒がいたりなど、多様なクラスメイトと一つの課題に取り組む事は時に困難であるものでしたが、非常にやりがいのあるもので、良い経験になったと思います。

留學生活に関して、まずオデンシアに到着して留學生の初めての顔合わせがオリエンテーションの日で、そこで友達ができたりコミュニティーが形成されていたりしました。最初はやはり同じ国からの留學生同士でコミュニティーができるのですが、日本人が僕以外にいなかったため、めちゃくちゃ心細かったです。しかし、このまま黙っていても何も始まらないと考え、手当たり次第にいろいろな人に声を掛けました。その結果、韓国人とインド人とイタリア人とドイツ人の謎のコミュニティーに参加する事が出来て、何とか出来ました。その友達とは留學後もたまに連絡を取るので、あの時に勇気をもって声をかけてよかったなと実感しております。その他にも、そのグループでビーチやモンサンミッシェルに行くほか、クラブに行くなど充実した留學生活を過ごせました。



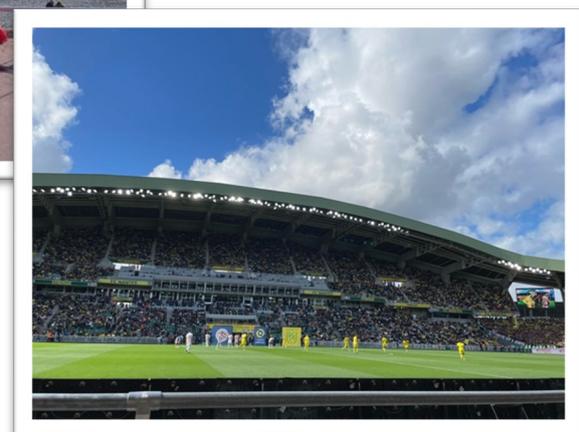
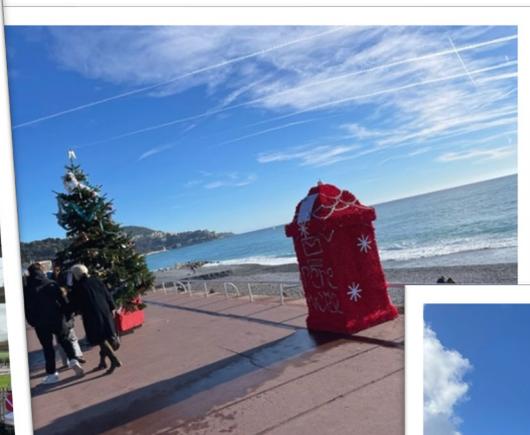
また、クラブで会った他大のブラジル人の留学生が日本文化の熱狂的なファンで、その子に日本の食事や漫画、アニメ、歴史、自分の生まれ故郷など、日本にまつわるありとあらゆる事柄についての会話を通じて良い友達を作る事が出来ました。他にも、日本の漫画やアニメが好きな人や、夏休み中に日本旅行に行った人、高校時代に3年間日本に留学していた人、来年度日本に留学する予定の人など、海外での日本人気が予想以上にあったことに驚き、自身も拙い英語でいろいろと説明する中で、何故か日本の文化について改めて理解を深める事が出来ました。この点については、オデンシアの交換留学生で唯一の日本人であったことにちょっと得した気分になりました。

その他にも、オデンシアの学生団体である BNI がバディー制度という留学生と正規学生を繋げる取り組みを行っており、それに登録して現地の学生とも交流をしました。9月の中旬頃にバディーが決まり、その子にナントの街や、おすすめのレストランを教えてもらいました。また、彼女の友人の家でラクレットを作ってホームパーティーをやったり、フランス式の寿司をみんなで作ったりして過ごしました。フランスでは寿司ネタの種類が少なく、基本サーモンの寿司がよく食べられているほか、巻物にはクリームチーズを入れたりするのが一般的で、日本の寿司との違いにかなり驚きました。



今年フランスでラグビーワールドカップが開催され、ナントでもラグビー日本代表の試合がありました。ワールドカップ期間中には多くの国からナントに観光客が来ており、特にアイルランドやウェールズから来た人が多いと感じました。その他にも、ナントにはサッカーのリーグ・アンのクラブがあるため日曜日に試合の観戦に行くほか、パリでは凱旋門賞を見るなど、著名なプロスポーツイベントが多く開催されており、スポーツ好きの私には非常に良い環境でした。

また、フランスには非常に多くの美術館があり、オデンシアの学生証と学生ビザを有していれば無料もしくは割引で入れる施設も多くありましたので、パリに行かれた際にはこれを活用して美術館巡りをするのもおすすめです。加えて、フランスでは第一日曜日は美術館の入場料が無料になるのですが、美術館はオープン前から非常に混んでいるので、どのくらい混むか事前に調べておくことをお勧めします。



冬になると、ヨーロッパ全体でクリスマスマーケットが開催され、そこでは地元の有名な製品や、可愛いクリスマスのオーナメントが売られているなど、日本のクリスマスとは異なる雰囲気を感じさせるかと思います。また、ほとんどのクリスマスマーケットにはホットワインが売られており、そのマーケット限定のプラスチック製のゴブレットがもらえるので、色々なマーケットを巡ってお気に入りのゴブレットを探すのも良いと思います。もしそのゴブレットを持ち帰らない場合には、マーケット内にゴブレットと1ユーロを交換できる場所があるので、安易に捨てないようにしましょう。この点について、ヨーロッパでのプラスチックごみの削減の取り組みが見られたのでとても興味深く思いました。

